



# セラピーのための仮説の組み立て方： 断片的な情報の事例をもとに

本ワークショップは、システムズアプローチ・家族療法の立場から、題材事例をもとに、その事例のCIや家族をどう捉え、治療仮説を設定し、セラピーに活かすか、を扱うものです。例えば事例検討を行う際に、描かれている情報から何をどう捉えるかは、個々によって異なります。優れた臨床家がなぜそれらの情報からセラピーとして適切な助言ができるか、その理由の一つは、情報を組み立て立体的に捉えられるから、と考えられます。家族療法で言えば、事例の情報から、その家族が何を大事にしてまとめやってきたか、その場合家族メンバーそれぞれがどんな関係で、どんな役割を担ってきたか、をシステムとして立体的に捉えられているかがポイントです（家族システムの理解）。加えて、臨床的な問題が発生し、家族が何をどう困り行き詰っているか（問題システムの理解）もあります。

そのため、あえて断片的な情報の2事例を題材とし、そこから家族システムや問題システムについて、何をどう想定し仮説化するか、の講義&ワークを行います。断片的な情報からCIや家族の動きを想定し、立体的に理解するための知識や考え方を前半で扱います。その上で、セラピーに活かしていくために、そこから何をどう情報を収集していくと、より家族システムや問題システムの理解につながるか、該当事例が改善していくための治療方針へと展開できるか、を後半で扱います。

やや難しい表現になったかもしれませんが、参加者がそれぞれのレベルに応じて、セラピーに活かせるよう情報を整理し、展開させていく内容です。システムズアプローチ・家族療法の習熟度は問いませんので、ご興味のある方はご参加ください。

## ◇WSの内容◇

- ☆事例の情報をシステムとして考えるために：縦軸としての発達・時間的変化、横軸としての環境
- ☆家族システムという考え方：家族の形成と、何を大事にしてまとめ、変化してきたか
- ☆題材事例をもとにしたワーク1：家族システムと問題システムの仮説化
- ※事例1は、これまでのおおよその経過の概略があるもの。事例2は、現在のかかわりが中心
- ☆セラピーに活かすための仮説化とThの働きかけ：何が分かっていないか、何がわかるといいか、そのための情報収集と質問
- ☆題材事例をもとにしたワーク2：Thが動きやすくなるセラピーのための仮説化へ
- ☆まとめ



◇参加条件：対人援助職で臨床実践を行っている方、それに準じる方

◇日時：2024年12月8日（日） 10：00～16：00

◇会場・方法：zoomによるオンラインで実施

◇講師：中野真也（東京福祉大学 / 日本家族研究・家族療法学会認定スーパーバイザー）

◇参加費：6000円                      ◇定員 20名

◇申込み方法：下記メールアドレスに、①お名前、②ご所属、③職種、④これまでのシステムズアプローチや家族療法などの研修・学習経験（なくても可）、を明記の上、お申込みください

[shinrigijyutukenkyukai115@yahoo.co.jp](mailto:shinrigijyutukenkyukai115@yahoo.co.jp)

注1：参加費は事前振込となります。申込後に振込口座をお知らせいたします

注2：当方の都合による中止以外は参加費の返金は致しません。予めご了承ください



### ☆オンライン開催にあたっての注意事項☆

ワークショップに参加するにあたり、守秘義務と個人情報の保護について十分に理解し、以下の項目を遵守してください。申し込みをされたことによって、了承したものと見なします。

1.   ワークショップ中に知りえた個人情報および参加にあたっての必要な情報(zoomのURL、ID、パスワード等)を、第三者(SNS等を含む)に漏洩しないこと。
2.   録画・録音・撮影を行わないこと。
3.   ウィルス対策がなされている端末の使用および、不特定多数の者が利用可能な公衆無線LANを使用しないこと。
4.   参加にあたり、第三者が同席および視聴をしないこと。
5.   参加にあたり、表示される氏名を申し込み時のものにする事。
6.   ワークショップ中は、講師やスタッフの指示に従うこと。
7.   事前申し込みでの参加のみとし、参加費の振込期限は12月1日（日）までとなります。ご参加が確認できた方にのみ、研修の3日前までに当日のURLを含む案内をお知らせいたします。（お振込がない場合にはキャンセル扱いになります）